

## イベント主催者の安全管理責任

イベント業務管理士1級  
警備員指導教育責任者資格  
間 所 伸 圭

キーワード : 主催者の安全管理対策、安全管理三要素、相互連携

### 【1】研究の背景

21世紀を迎えFIFAワールドカップをはじめコロナ化での東京オリ・パラ2020等々国際的大型イベントを成功裏に開催するなどイベント業界の活躍は顕著であった。しかし、不透明な国際情勢、そして不透明な経済、少子・高齢化、加えてコロナによるイベントの中止や制限など苦悩を抱える中でイベントを巡る汚職事件や公衆の面座での暗殺事件の発生などイベントの本質に係る国内情勢に鑑みてイベントの在り方について根本的に再検討することが必要である。

イベントの成功と表裏の関係にある安全管理対策についても同様で、常に裏面に位置して成功を担保する活動を行うために必要な“主催者の定義”と“主催者の安全管理責任の具体的要素”及び“安全管理は主催者組織の相互連携”と“来場者の協力を得て”責任を完遂することを明確にして再確認する必要がある。

2001年明石花火大会歩道橋事故では、主催者の企画担当者は当然刑罰を科され、警察組織と警備会社責任者がその実施責任を追及され現場責任者が禁固刑という思い実刑判決を受けた事例がある。警察及び警備会社の責任を果たすべく法令改定や教育・訓練を強化して成果を上げている。しかし、イベント業界での安全管理に関する活発な活動が見られないのは“安全管理は警察と警備会社の責任”と依存体質があるのではないかと危惧される状況にある。

### 【2】主催者の定義

イベントの規模によるが一般的に一定規模以上のイベント開催では、主催者は単独企業、共同企業体、または実行委員会制をとる場合が多い。そして、その基にイベント企画・制作や運営、警備、輸送、広報等々の業務を分担して遂行する形式になっている。

この場合、成功の成果も事故発生時の刑事・民事責任も最終的に企業の責任者や実行委員会委員長であるが、その下で業務を分担する組織も同様に功績と、失敗の一次責任と連帯責任、加えて社会的責任も負わねばならない。

### 【3】主催者の安全管理責任要素について

一般的に事故等発生時に責任は“主催者にあり”と言われているが具体的に“いかなる要素をどのように遂行すべきか”明確に示されておらず関係者に自覚されていない。そこで、主催者が負うべき安全管理要素(業務分野)を理論と現場で得た知見に基づいて分析した結果、概ね次の図の通りであったので提起する。

## 1. 主催者が負うイベント安全管理要素（業務分野）

本研究大会が示す今後のイベントの方向性 Well Being を勘案すれば、安全管理の目指すべき方向性は「安全・安心かつ快適性」（安全管理三要素）であり、特に会場施設の特性把握（危険性把握）要素の基礎として行うことが必要になる。加えてコロナ禍での教訓として「安全管理は来場者の協力が不可欠である」要素を組み入れて次図の通りである。



図 主要な安全管理要素（分野）

## 2. 安全管理を如何に遂行するか

主催者は、イベント開催組構築に当たり前図の要素（業務分野）に沿って構成し、それぞれの視座で専門的に分析し、その活動が相互連携する必要であることから構成する全分野との協議で情報を共有して連携すべき具体的活動を調整することが肝要である。

この情報共有と連携活動はイベントの企画段階でも実施段階においても実行可能なものとするために、特に警備を担当する警備会社と警察協議で具体的に意思疎通を図ることが安全を確保してイベントを“成功に導く鍵”となるのが「安全管理連携計画」である。

以上